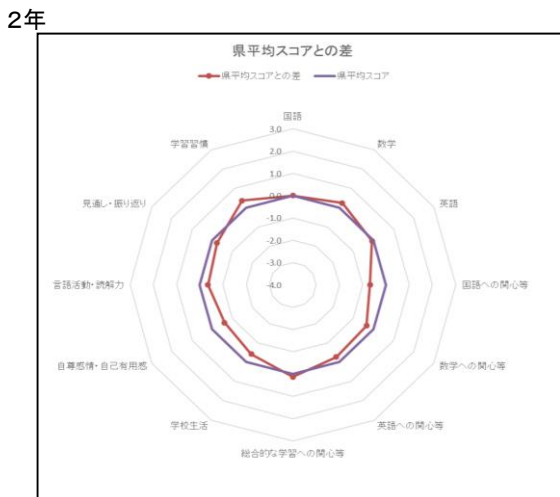
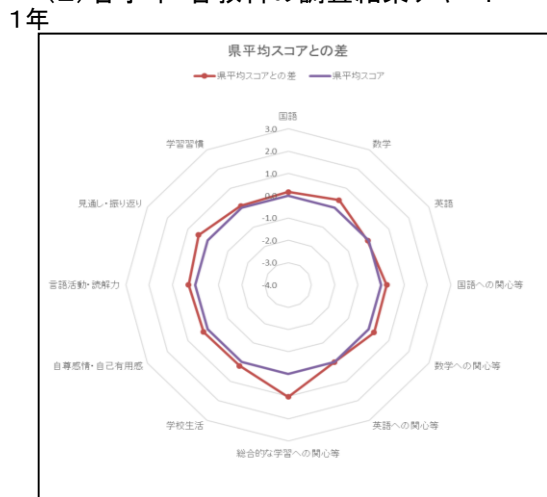


# 令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立東出雲中学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

|    |    | 成果と課題(○:成果、●:課題)  | 対策   |
|----|----|---|--|
| 1年 | 国語 | ○漢字の読み書きや文法問題など、言語事項に関しては正答率も高く、無答率も低い。<br>●資料を読み取って自分の考えをまとめる問題では、自分の考えはもっているが、条件にあうように書くことが苦手な生徒が多い。  | ・様々な資料を使い、文章の型や条件をつけながら書かせる場面を作る。<br>・「話す、発表する」場面と関連させることにより、「書く」材料を整えて記述する機会を工夫する。  |
|    | 数学 | ○全領域で県平均を上回っている。<br>○難しい問題に対して、粘り強く取り組んでいる生徒の割合が高い。<br>●具体的な場面において方程式をつくることはできるが、方程式を解くことができない生徒がやや多い。  | ・方程式の解法について復習する機会を設け、等式の性質と方程式の関係を理解した上で、移項を用いて能率的に方程式が解けるようにする。<br>・生徒が数学の有用性を感じることができるよう、学習したことを生活の中で活用できる場面を多く取り上げるよう努める。   |
|    | 英語 | ○「言語や文化の知識・理解」、「聞く力」は県平均を上回っており、特に短い対話や文を理解して適切な語や文を選ぶ力は、定着してきている。<br>●選択式・短答式問題は、県平均とほぼ同等である一方で、記述式問題の正答率は大きく下回っている。特に、対話の流れをふまえて適切な英文を書く力が不十分で、無回答者も多い。               | ・今定着してきている「聞く力」や短いやり取りにおけるコミュニケーション力をより高めるために、Teacher's TalkやSmall Talkを継続し、充実したものにする。<br>・既習事項を活用して条件英作文に取り組む機会を増やす。書きなれることで、書くことへの苦手意識を減らす。<br>・書いた物は発表・掲示する等の活用を通して、相互の学び合いや意欲喚起にもつなげる。 |
| 2年 | 国語 | ○文法問題や語句の意味をとらえる問題は、県平均を上回っている。<br>●資料を読み取って自分の考えを書く問題では、必要な情報を選択したり、自分の考えを文章表現することが苦手な生徒が多い。また、無回答率が高い。  | ・授業のワークシートを活用し、自分の考えを、根拠を明らかにして記述する場面を工夫する。<br>・資料を読み取って自分の意見を書く場面を設定し、学び合いながら、自分で文章を組み立てる機会を作る。   |
|    | 数学 | ○計算力が高く、数学を苦手な生徒も問題を解こうという意欲はある。<br>●文章の読解力が低く、2数の関係性を見いだせない生徒が多い。また、関係性が分からない問いに対してあきらめる傾向がある。<br>●記述問題や活用問題に苦手意識を持っている。   | ・授業の初め的小テストや計算力テストの継続の成果が出ていると思われる。今後も継続していき、授業の単元と離れて、既習事項を振り返る内容を盛り込んでいく。<br>・授業において、学習事項を理解しているかどうか、確認しあえるペア学習を取り入れていく。   |
|    | 英語 | ○読む力が県平均を上回っており、特に物語のあらすじや説明文の大切な部分などを読み取る力がついてきている。<br>●聞く力が県平均を下回っている。特に文字情報なしにまとものある応答を聞き取ることに課題がある。<br>●書く力が県平均を下回っている。特に対話の流れを踏まえて書く問題で無答率が高く、間違いに対する抵抗感が大きい傾向がある。 | ・授業の初めのTeacher's TalkやSmall Talkを継続し、その対話の内容を確認することで理解度を高める。<br>・条件英作文に加え、自由英作文の活動を増やし、コメント等でやり取りして書きなれることで書くことへの苦手意識を減らす。   |

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

|     |     | 国語 | 数学 | 英語 |
|-----|-----|----|----|----|
| 1年生 | 本校  | 71 | 58 | 61 |
|     | 松江市 | 69 | 52 | 64 |
|     | 島根県 | 68 | 49 | 62 |

受検者数  
1年生 146 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。  
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

|    |            | 成果と課題(○:成果、●:課題)  | 対策  |
|----|------------|---|---|
| 1年 | 授業改善に関わる事項 | ○グループ活動で調べ学習をしたり、話し合い活動をしたりする中で、自分の考えを発表する活動がよく行われている。<br>○学校図書館を使った授業は、他の授業を行うときにも役立っていると考えている生徒が比較的多い。<br>●将来の夢や目標を持っている生徒が少ない。 | ・キャリア教育として、将来や進路について考え、自分の目標を持てるように支援をする。<br>・各教科と連携して、図書館を活用した授業をさらに充実させるように工夫する。                              |
|    | 家庭学習に関わる事項 | ○自分から進んで家庭学習に取り組み、1時間以上行っている生徒が比較的多い。<br>●家庭学習の内容は宿題がほとんどで、自分で考えながら復習や予習をしている生徒は少ない。  | ・友だちの自学ノートの内容を紹介したり、各教科の特性に応じた家庭学習のやり方を紹介したりして家庭学習の内容の充実を図る。<br>・授業の学習内容と家庭学習での取組の関連を実感させるように、指導の方法を工夫する。       |
| 2年 | 授業改善に関わる事項 | ○めあてをきちんとし、話し合う活動を通して考えを深めたり、広げたりする活動ができています。また、学んだことを他の学習に生かすこともできています。<br>●発展的な課題に挑戦させる活動が不十分である。<br>●将来への夢や目標を持っている生徒が少ない。     | ・授業に、課題解決やレポートの作成などの調べ学習や、答えが一つに定まらない課題に協力して取り組むような学習を積極的に取り入れていく。<br>・キャリア教育の計画を見直し、より主体的に将来について考えさせるような取組を行う。 |
|    | 家庭学習に関わる事項 | ○自分から家庭学習に取り組んでいる生徒が多く、家庭学習の時間も比較的多く確保されている。<br>●家庭学習の方法への指導が不十分と回答している生徒が多く、効果的な家庭学習が行われていない可能性がある。                              | ・自学ノートのチェックと指導を丁寧に行うとともに、参考になるノートを紹介したり教員が様々な家庭学習の方法を紹介したりするなどして自分に合った学習方法を見つけられるように支援する。                       |

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

